

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 045	提案機関名 (社)神奈川県園芸協会(県果樹組合連合会)
<b>要望問題名</b> カキ「太秋」の安定生産技術の確立	
<b>要望問題の内容</b> 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 カキ「太秋」は直売向けの大果品種として食味も良く大変好評である。しかし、太秋は、他の品種より雌花の着生が少なく、また収穫前に軟化し落果するものが多い傾向が見受けられるこの様な対応策として、8月下旬から9月の収穫1ヶ月前に秋肥を施すと、雄花が減少し雌花の着果数が増加し、隔年結果の防止が可能と唱える篤農家もあり、効果確認を要望する。また、樹勢の強い直上側枝を3年間結果枝として利用し、カット前年には側枝に環状剥皮を施し、樹全体のコントロールして安定着果を図る更新技術との組み合わせも出てきた。一部の予備枝の活用や収穫まで安定着果と肥大効果の確認などを生産安定のための技術改善策の検討をお願いしたい。	
<b>解決希望年限</b>	1年以内 <input type="checkbox"/> 2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 4～5年以内 <input type="checkbox"/> 5～10年以内 <input type="checkbox"/>
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input type="checkbox"/> 農業技術センター <input type="checkbox"/> 畜産技術所 <input type="checkbox"/> 水産技術センター <input type="checkbox"/> 自然環境保全センター
<b>備考</b>	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	果樹花き研究部
担当者名：小泉和明 電話番号：0463-58-0333 F A X 番号：0463-58-4254			
<b>対応区分</b>	実施 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 継続検討 <input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 調査指導対応 <input type="checkbox"/> 現地対応 <input type="checkbox"/> 実施不可 <input type="checkbox"/>		
<b>対応の内容等</b> ‘太秋’の課題である安定着果技術については、開心自然型(16年生)、棚栽培(18年生)および斜立並木仕立て(15年生)において、仕立て法の違いが収量性、果実品質に及ぼす影響を継続して調査を行いました。また、現在取り組んでいる実用開発事業「果樹ジョイント」の中で、福岡県が‘太秋’のジョイント栽培に取り組んでおり、環状剥皮などを行った側枝の更新法、剪定法などについて検討を行っている。また、当農技Cにおいても低樹高ジョイント栽培に昨年から取り組んでおり、本研究で得られた知見を‘太秋’の安定生産技術の確立に活用できると考えられます。 着花安定のための施肥技術については、22年度よりカキ試験圃場の施肥方法を変え、年間窒素施肥量 20.5kg とし、従来の 11 月元肥 1 回施肥から、11 月(窒素 6.5kg)、3 月(窒素 6.5kg)、6 月(窒素 7.5kg)の3回に分けての施肥法を検討しており、このことが‘太秋’の樹勢と安定生産に及ぼす影響について明らかになると考えられます。 8月施肥による雌花の着生安定効果についても、試験圃場内の一部の太秋で8月31日に施肥を行っており、今後の生育状況、果実品質について調査を行っていく予定です。			
<b>解決予定年限</b>	1年以内 <input type="checkbox"/> 2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 4～5年以内 <input type="checkbox"/> 5～10年以内 <input type="checkbox"/>		
<b>備考</b>			